

2021 年度(令和 3 年度)

事業報告書

(第 11 事業年度)

自 2021 年 1 月 1 日

至 2021 年 12 月 31 日



公益社団法人 企業メセナ協議会  
Association for Corporate Support of the Arts

# 目 次

I. 法人の概況 .....	1
1. 公益社団法人設立年月日	
2. 定款に定める目的	
3. 定款に定める事業内容	
4. 公益法人の認定等に関する事項	
5. 会員の状況	
6. 役員等	
II. 組織運営の概況 .....	3
1. 会議等の開催状況	
2. 部会・ワーキンググループによる事業・活動の推進	
III. 事業概要 .....	5
公 1: 企業による芸術・文化支援および芸術・文化振興による社会創造の促進と普及	
1-1. 提言・提案活動 .....	8
1-2. 調査研究事業 .....	8
1-3. 認定・顕彰事業 .....	10
1-4. 情報発信 .....	14
1) 広報活動	
2) ウェブサイト運営	
3) 出版、ライブラリー	
1-5. 普及促進 .....	16
1) メセナフォーラム等	
2) 国際交流	
3) メセナネットワーク	
4) 地域メセナ交流・推進	
1-6. コーディネート、協力 .....	19
公 2: 芸術・文化活動等への寄付を促す助成に関する事業	
2-1. 重点活動 .....	22
2-2. 助成事業活動状況 .....	22

# I. 法人の概況

## 1. 公益社団法人設立年月日

2011年1月6日

※ 1990年4月20日設立の旧社団法人は、移行認定に伴い2011年1月5日に解散登記を行った。

## 2. 定款に定める目的

この法人は、企業をはじめ芸術文化に関わる団体が参加、協働し、芸術文化振興のための環境づくりと基盤整備に努め、創造的で活力にあふれた社会、多様性を尊重する豊かな社会の実現に寄与することを目的とする。

## 3. 定款に定める事業内容

この法人は、先の目的を達成するために、次の公益目的事業を行う。

- (1) 企業による芸術文化支援の促進と普及
- (2) 芸術文化支援に関する情報の収集・発信および仲介・協力
- (3) 芸術文化支援に関する調査・研究および文化政策に関する提言・提案
- (4) 国内外の芸術文化振興に関する団体・機関との交流・連携および企業相互の協力・連携による芸術文化支援の推進
- (5) 企業等による芸術文化支援活動の顕彰
- (6) 芸術文化活動への寄付を促す助成に関する事業
- (7) その他公益目的を達成するために必要な事業

この法人は、公益目的事業の推進に資するための事業を必要に応じ行う。

## 4. 公益法人の認定等に関する事項

当該事業年度内閣府からは特段の指摘事項、勧告、または命令はなかった。

## 5. 会員の状況

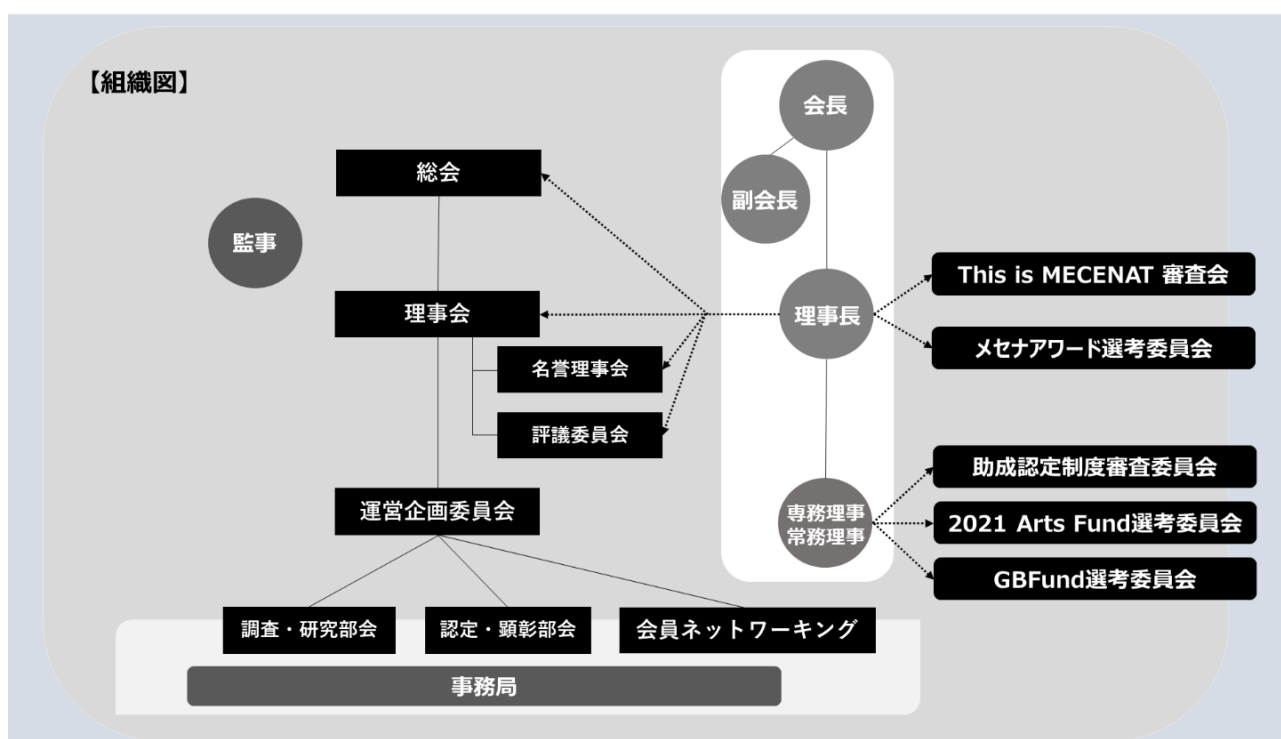
正会員:117 社・団体 準会員:31 社・団体/18名 (2021年12月31日現在)

## 6. 役員等

2021年12月31日現在

名誉会長	福原義春	株式会社資生堂 名誉会長
顧問	福地茂雄	アサヒグループホールディングス株式会社 社友
会長	高嶋達佳	株式会社電通 相談役
副会長	渡辺雅隆	株式会社朝日新聞社 顧問
理事長	尾崎元規	花王株式会社 前取締役会 会長
常務理事	澤田澄子	兼務 事務局長
理事	泉谷直木	アサヒグループホールディングス株式会社 特別顧問
	古賀信行	野村ホールディングス株式会社 特別顧問
	杉村亥一郎	凸版印刷株式会社 トップングループ福祉会 常務理事
	布垣直昭	トヨタ自動車株式会社 社会貢献推進部長 兼 企業・車文化室長 兼 トヨタ博物館館長
	萩原なつ子	立教大学 社会学部 大学院 21世紀社会デザイン研究科 教授
	原島 博	東京大学 名誉教授
	福川伸次	一般財団法人地球産業文化研究所 顧問
	二宮雅也	損害保険ジャパン株式会社 取締役会長
	星 久人	株式会社ベネッセホールディングス 特別顧問
	山本尚美	株式会社資生堂 チーフクリエイティブオフィサー
	吉本光宏	株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事
監事	岩田武司	よこはま第一法律事務所 弁護士
	岡部 亮	公益財団法人公益法人協会 前相談室室長
名誉理事	遠藤信博	日本電気株式会社 取締役会長
	北島義俊	大日本印刷株式会社 代表取締役会長
	佐治信忠	サントリーホールディングス株式会社 代表取締役会長
	塚本能交	株式会社ワコールホールディングス 代表取締役会長
	早川 茂	トヨタ自動車株式会社 代表取締役副会長
	平田保雄	株式会社日本経済新聞社 参与
	福武總一郎	株式会社ベネッセホールディングス 名誉顧問
	山内千鶴	日本生命保険相互会社 取締役 常務執行役員
	渡邊光一郎	第一生命ホールディングス株式会社 取締役会長
評議員	足立直樹	凸版印刷株式会社 特別相談役
	奥村洋治	株式会社フジタ 代表取締役社長
	佐藤康博	株式会社みずほフィナンシャルグループ 取締役会長
	田中稔三	キャノン株式会社 代表取締役副社長 CFO
	戸田裕一	株式会社博報堂DYホールディングス 代表取締役会長

## II. 組織運営の概況



### 1. 会議等の開催状況

#### 【定時社員総会】

- ・ 3月5日：2020年度(令和2年度)事業報告及び収支決算承認の件

#### 【通常理事会】

- ・ 2月16日：2020年度事業報告及び収支決算(案)の件／新会員承認の件／定時社員総会の招集の件／代表理事・執行理事の職務の執行状況について／評議員 辞任の件／会員動向について／今後の予定
- ・ 12月2日：2022年度事業計画及び収支予算(案)の件／資産取得資金積立の件／役員賠償責任保険加入の件／代表理事・業務執行理事の職務の執行状況について／会員動向について／事業報告について／30周年記念行事について／今後の予定

#### 【臨時理事会】

- ・ 3月25日：新会員承認の件
- ・ 7月15日：新会員承認の件

## 【運営企画委員会】

- ・2月4日:2020年度事業報告(案)
- ・6月11日:新任委員の紹介・挨拶/在任委員の紹介・挨拶/2021年1月~5月活動報告
- ・11月29日:新任委員のご紹介/2022年度事業計画(案)の件/2021年度事業報告について/30周年記念事業について/配布資料について(アサヒグループホールディングス、サントリーホールディングス、大日本印刷、ベネッセホールディングス)

## 【役員・運営企画委員会合同会議】

- ・2月16日、12月2日:同日ともコロナ感染症拡大防止の観点から開催せず

## 2. 部会・ワーキンググループによる事業・活動の推進

(◎:部会長/グループリーダー、○:サブリーダー 敬称略 \*2021/12/31現在)

### 【調査研究部会】(1回:12/21)

企業・企業財団によるメセナ活動の実態や傾向、意識等を調査・分析し、メセナを担う実務担当者に情報を提供するとともに広く社会に紹介。メセナに関する研究の提案、方向性を検討する。

◎森実尚子(日本電気)、上坂陽次郎(朝日新聞社)、吉本光宏(ニッセイ基礎研究所)

### 【認定・顕彰部会】(4回:5/14、7/20、7/27、12/20)

メセナに取り組む企業・企業財団等を励まし、社会からの関心を高めることを目的として、百社百様のメセナを認定する「This is MECENAT」について議論し、顕彰事業「メセナアワード」の運営を担う。

◎石橋響子(大日本印刷)、大西隆宏(アサヒグループホールディングス)、後藤英津子(第一生命)、角田尚美(JTB)、松原千春(竹中工務店)、吉田祐子(電通)

### 【会員ネットワーキンググループ】(コロナ禍のため開催せず。)

会員相互の交流・連携強化を目的とし、情報交換・相談・研鑽等を恒常的に行える場を設ける。各事業に関連づけた会合を開き、相互のネットワークづくりに貢献する。

◎宗村 泉(凸版印刷)、安井克行(朝日新聞社)、伊藤由貴子(神奈川芸術文化財団)、岡部三知代(竹中工務店)、中島明日香(白寿生科学研究所)、薩川浩章(ベネッセホールディングス)、小森福見(リクルートホールディングス)、鈴木久美子(リソー教育)

### Ⅲ. 事業概要

コロナ禍において事業の継続に注力。

変化に対応しながら芸術文化活動の継続・発展のための活動を展開

本年度も新型コロナウイルスの感染拡大が続き、第2回、第3回の「緊急事態宣言」が発出され、1年のうち6か月余りが同宣言下にあるという厳しい年となった。このような困難な状況の中で、昨年から1年間延期された2020東京オリンピック・パラリンピックは、ほぼ無観客で開催され、世界中から多くのアスリートが参加し一定の盛り上がりを見せた。一方、コロナ禍は昨年同様芸術文化活動にも多大な影響を及ぼしたが、オンラインとリアルの併用、予約制の導入、新たなコンテンツの制作など、安全面を考慮に入れながらさまざまな工夫が試みられ、活動の継続への取り組みが行われた。協議会においても、安全のために時短やフレックスタイム、在宅勤務などで対応し、工夫を加えながら事業活動を継続し、企業をはじめ芸術文化にかかわる方々とのコミュニケーションを図りながら芸術文化の振興に貢献するよう努めた。 ※東京都における緊急事態措置実施期間:第2回 1/28～3/21、第3回 4/25～6/20、7/12～9/30

#### 事業活動の継続に注力

緊急事態宣言下の時期が長く続き、安全配慮のための制約を受けながらも、昨年のコロナ対応の経験を活かし、活動の柱である①調査・研究、②認定・顕彰、③助成の3事業、並びに会員ネットワーキング、セミナー、広報などの活動を、協議会全体で協力しながら実施した。

調査・研究事業では、毎年行っている企業のメセナ活動実態調査において、昨年の業務の効率化、回答企業の負担軽減、より深い分析を可能にする、などを目的にシステム化を行ったことにより、インターネット上での回答が可能となり、本年度も回答企業・企業財団数がそれぞれ約8%、4.5%増加した。(企業:503社/企業財団:186団体)ただし、回答企業の中で50社余りがメセナ活動を行わなかったと回答しており、コロナ禍が影響していると推測される。

認定・顕彰事業については、まず本年度で8年目を迎えた認定制度(「This is MECENAT」)においては、例年並みの登録件数を維持し登録件数166件/103社となり、初めて登録企業・団体が100社を超えることとなった。この制度も着実に浸透してきており、さらなる掘り起しと認知度向上に努め登録活動の増加を図って行く。メセナアワードでは、今年度はコロナ禍へどのように対応をしたかが評価の大きな軸になり、その年(時代)の社会課題にどのように対応したか、という点が評価されていることがより明確になった。アワードの価値を高め、発信力を強化するために、これからのメセナアワードのあり方を審査委員や部会メンバーなどの意見を聞きながら検討を進めて行く。

広報事業については、年間計画に基づき、事業担当と広報がよりよい発信方法を事前に検討し、実施することが定着してきた。認定・顕彰事業では、本年もTIM認定のプレスリリースを各認定活動の地域別に21種類作成し、それぞれに配信するなどきめ細かな対応を行い、地方紙への掲載件数を増やし活動の認知度を高めるなど、着実に成果を上げてきている。

助成事業では、コロナ禍により定期的に制度を利用していた活動団体も、芸術文化活動がままならない中、寄付件数や寄付金額の減少は見られたが、昨年より少し持ち直している。また、このような状況だ

からこそ新たに活動を始めようという団体が協議会を探しだし、相談を受け新たに申請をするなどという動きもでてきている。

### 30周年記念事業

本年も30周年記念特別講演会や交流会は延期せざるをえなかったが、20周年の節目に制作された「メセナを知る本 1990-2010」(2010年発行)に続く30周年記念書籍として、「サステナブル経営と企業メセナの役割」を12月25日に発行した。この本は、企業メセナの軌跡と発展、SDGs時代における企業メセナの役割を新しい視点でまとめたもので、社会の基盤づくりに貢献し、未来に向けて社会とともに進化し続ける企業メセナの今を理解してもらえる内容となっている。

### オンラインツールを併用し活動、コミュニケーションを強化

本年度も調査報告会やSDGsセミナー、メセナアワードの贈呈式など、安全の観点から会場参加の人数を限定しながらYouTube配信も行った。それぞれ会場参加者に視聴者数を加えると150名以上となり、多くの参加者を得ることができた。

また、本年度も運営企画委員会や部会のメンバーなどの協力のもと、協議会や各事業のあり方について検討を行ない、これらの会議にもオンラインツールを併用した。このことにより参加しやすくなり参加者数もより増える結果となった。

昨年、コロナ対応への緊急アンケートで要望を受け、音楽ホールを持つ会員、4社・団体の参加によりオンラインで情報交換会を行ったが、本年も「2020年度メセナ活動実態調査報告書」のアンケート調査で会員企業から情報交換の要望を受け、オンラインでの情報交換会をジャンルごとに3回実施した。(参加総計20名、14社・団体)今後も適宜オンラインを活用して、情報交換の場を設け、よりよい活動に繋げてもらえるようにして行く。

また、1996年に地域のメセナ活動の情報交換と相互協力を目的に「全国メセナ組織連絡会」が発足し、より緩やかなつながりとして1998年に「全国メセナネットワーク」と改称、当初は協議会が事務局を務めていたが、幹事を持ち回りとして年1回の総会が行われてきていた(現在の会員:13団体)。徐々に活動が停滞していたこともあり、協議会が幹事を引き受け各団体の考えも聞きながら今後のあり方を検討するように12月にオンラインも併用して総会を開催した。活発な議論が交わされ、情報交換の場として勉強になるので継続して欲しいという結論になった。それぞれバックグラウンドは異なるが地方の団体にとって、全国のメセナ団体と情報交換、コミュニケーションできる場は貴重であることを痛感した。来年度はメセナ活動について、また今後の運用形態についても引き続き議論することになった。

本年度は昨年に引き続きコロナ禍により昨年以上に厳しい年となった。そのような中でも協議会のみならずさまざまな芸術文化に関わる団体、アーティストなどが粘り強く活動の継続、発展に向けて努力した1年であった。協議会としても、WEBも活用しながら全国の会員企業や芸術関連団体などとのコミュニケーションに努め着実に活動を展開することができた。



【2021 年度事業等実施状況】

月	主な事業・活動	理事会・部会等
1 月	助成相談日 (1/25)	第 7 期メセナアソシエイト MTG④
2 月	助成相談日 (2/25)	第 1 回運営企画委員会 (2/4) 第 21 回通常理事会 (2/16)
3 月	助成認定・2021ArtsFund 第 1 回審査・選考委員会 (3/17) 助成相談日 (3/29) 『2020 年度メセナ活動実態調査報告書 Mecenat Report2020』発行 (3/25) ★ TIM 募集 (3/15-5/14) ★	第 10 回定時社員総会 (3/5) 第 38 回臨時理事会 (3/25)
4 月	第 8 期メセナアソシエイト公募 (4/1-5/6)	
5 月	会員向け情報交換会 (オンライン) (5/13・17・18) 助成相談日 (5/25) メセナライター募集 (5/31) アワード募集 (5/31)	認定・顕彰①
6 月	「SDGs とメセナ」vol.6 「2020 年度メセナ活動実態調査」報告会～今こそメセナ!! コロナ禍での対応と今後の展望～ (6/11) ★ ネット TAM スクール (6/19.20) 助成認定・2021ArtsFund 第 2 回審査・選考委員会 (6/22) 助成相談日 (6/9.29) TIM 審査会 (6/14) ★	第 8 期メセナアソシエイト MTG① 第 2 回運営企画委員会 (6/11)
7 月	助成相談日 (7/26)	認定・顕彰②③ 第 8 期メセナアソシエイト MTG②
8 月	助成相談日 (8/24)	
9 月	アワード選考会① (9/6)、② (9/13) 助成認定・2021ArtsFund 第 3 回審査・選考委員会 (9/15) 助成相談日 (9/30)	
10 月	助成相談日 (10/26)	
11 月	助成相談日 (11/30) アワード贈呈式・記者発表会★ (11/25)	第 3 回運営企画委員会 (11/29) 第 8 期メセナアソシエイト MTG③
12 月	助成認定・2021ArtsFund 第 3 回審査・選考委員会 (12/13) 助成相談 (12/2.14.20) 全国メセナネットワーク 2019・2020 年度総会 (12/17) 30 周年記念書籍発行「サステナブル経営と企業メセナの役割」 (12/25)	第 22 回通常理事会 (12/2) 調査研究① 認定・顕彰④

★はプレスリリースを配信

## 1:企業による芸術・文化支援および芸術・文化振興による社会創造の促進と普及

### 1-1. 提言・提案活動

#### ■行政、自治体など公的機関の文化政策活動への参画

- 東京都のボランティア活動推進協議会へのメセナ案件の推薦を受嘱し推薦
- 静岡県文化審議委員会の委員として文化振興基本計画に参画
- 船橋市文化振興推進協議会の委員として、文化振興施策の評価、提言などを行い総合的な推進に参画
- 横浜市広報企画審議会に委員として任命され受嘱

### 1-2. 調査研究事業

2021 年度の調査研究事業では、国内のメセナに関する調査、メセナ事例の研究(メセナアソシエイト・協議会アソシエイト)、外部機関からの調査受託・相談対応の 3 点に重点を置いて業務を推進した。

#### ■国内のメセナに関する調査を実施

- 日本の企業・企業財団へ行っている「メセナ活動実態調査」ではアンケートを中心にデータを収集し、回答期間中に開催していたオリンピック文化プログラムに対する時事設問に加え、コロナウイルス感染拡大前後での活動の変化・課題についての設問を新たに設けるなど幅広い観点からメセナ活動の実態を把握することに努めた。昨年度の本調査システム化に際して寄せられた回答者の要望をもとに、印刷機能等を追加するなどさらなる回答率の向上をはかった。その結果、2021 年度調査では、企業 503 社、企業財団 186 団体から回答を得ることができた(対前年度比:企業 38 社増、財団 8 団体増)。
- 『2020 年度メセナ活動実態調査報告書 Mecenat Report 2020』を 3 月 25 日に発行し、事例紹介を増やして報告書の充実をはかった。さらに、プレスリリースを 3 月 25 日に配信し、おもに企業や官公庁より問い合わせをいただいた。また、調査結果を様々な分野で活用してもらえるよう企業や官公庁だけでなく、大学を含む研究機関や国内のアート関係者の方々へも送付した。
- 2020 年度のメセナ活動実態調査の結果報告と内容の理解促進を目的に 6 月 11 日に報告会を開催した。前半は、2020 年度のメセナ活動実態調査の結果報告を行った。後半は、現在大きな関心を集めている「SDGs とメセナ」の連続セミナー第 6 回目およびコロナ禍でのメセナ活動の事例紹介として、トヨタ自動車株式会社 布垣様、ローム株式会社・公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション 竹内様を招き、各社・団体の取り組みについてご講演いただいた。ゲスト講演の内容をふまえた感想や意見交換の場を設け、コロナ禍でのメセナ活動の課題やアフターコロナを含む今後の可能性についても議論を深めた。会場では、ホール収容人数を通常期の 30%程度に制限するなど感染予防対策を徹底し、感染者を出さず安全に開催することができた。合わせて、YouTube ライブによるオンライン配信を実施した。

- 2021年度の調査研究部会は1回実施。実態調査の集計結果を分析し、中間報告を行った。集計結果をもとに、各企業のメセナ活動の現状をより実態に則して把握できるよう検討を行った。また、調査対象年度がコロナ禍とオリンピック開催年であることをふまえ、3月発行予定の報告書の台割についても議論を行った。

### 「SDGsとメセナ」vol.6 「2020年度メセナ活動実態調査」報告会

#### ～今こそメセナ!! コロナ禍での対応と今後の展望～

- 実施日 2021年6月11日(金) 16:00～18:00
- 会場 東京ミッドタウン・ホール B・オンライン配信 (YouTube ライブ)  
(東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・イースト B1F)
- 登壇者 調査研究部会 部会長: 日本電気(株) 森実尚子  
ゲスト: トヨタ自動車(株) 布垣直昭  
ローム(株)・(公財)ローム ミュージック ファンデーション 竹内善行  
※敬称略
- 参加申込 会場: 32名  
オンライン: 126名



※文化庁 令和2・3年度「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」委託事業

### ■メセナ事例の研究(メセナアソシエイト)

- 2014年度より導入した「メセナアソシエイト」は、外部の若手研究者が各自の専門性を活かしながら関心あるテーマを設け、企業メセナについて研究を行うものである。オンラインも活用しながら事務局でのライブラリミーティングで議論を深め、自らのテーマを探り、企業や企業財団への取材を行い、メセナの事例研究を行っている。
- 第7期のメセナアソシエイト(3名)は、定期的に事務局とミーティングを行い、それぞれ企業・財団・有識者へ取材を行った。完成したレポートは6月に協議会ウェブサイトに掲載した。

#### 第7期メセナアソシエイト

氏名	タイトル	取材企業・施設
田尾圭一郎	自生するメセナ	アマタホールディングス株式会社 一般社団法人 ESG 情報開示研究会 哲学者・山本哲士氏

氏名	タイトル	取材企業・施設
丹羽 梓	企業メセナにおけるパートナーとは？	三菱地所株式会社 公益財団法人三井住友海上文化財団 日壇文化協会
吉田駿太郎	コンテンポラリーダンスにおける日本のメセナ活動―「振付家の時代」と振付家の社会的な役割を中心に―	株式会社資生堂 トヨタ自動車株式会社 株式会社ワコールアートセンター 公益財団法人セゾン文化財団

- 2021 年度第 8 期も 2020 年度と同様に、過去に論文執筆経験があり、芸術文化分野における職務経験などを有する方を対象に 4～5 月に募集し、選考を経て 4 名を採用した。
- 4 名のテーマは、「終了したメセナの記録と検証―福岡・天神のギャラリー「三菱地所アルティウム」(仮)」、「日本戦後写真の振興と写真の芸術的価値の向上に企業メセナが果たしてきた役割 その意義と今後の課題(仮)」、「日本の現代演劇史に見る民間企業による劇場文化支援(仮)」、「企業はミミズに進化する(仮)」である。それぞれ企業や有識者等へ取材を行い、事例研究から分析を深める。

#### ■メセナ事例の研究(協議会アソシエイト)

- 2020 年度から今までのメセナアソシエイトに加えて、若手研究者の育成とともに最新のメセナの動向を多角的に捉えた情報を提供することを目的とした協議会アソシエイトをスタートさせた。協議会が設定したテーマに基づき、調査・研究を行ってもらいホームページなどで公開することにより、日本および世界におけるメセナの潮流を理解し、日本におけるメセナ活動活性化の一助とする。本年は 1 名採用した。

氏名	タイトル	紹介企業(国)
三上真理子	危機の時代の芸術文化活動 コロナ禍における企業メセナ ～欧米の文化政策の特徴と企業メセナの最新事例から～	フォルクス・ヴァーゲン社(ドイツ) dm(ドイツ) アドビ社(アメリカ) IDW(リトアニア) 他

- 2021 年度も 2020 年度の三上氏と協働で国際調査を含めた研究を進めている。

### 1-3. 認定・顕彰事業

「This is MECENAT」

#### ■コロナ禍でも例年並みの登録数、認定企業・団体が初めて 100 社を上回る

- 開始から 8 年目となったメセナ認定制度「This is MECENAT」(以下「TIM」)では、166 件、103 社・団体を認定し(2020 年度:164 件、96 社・団体)、制度開始から初めて 100 社を上回った。2014 年からの登録件数は延べ 1,166 件となった。

- 2020年に続き、コロナ禍によるメセナ活動の中止・延期や、再開までスケジュールの見通しが立たない点をふまえ、対象期間を当年4月～翌年3月までと定めず、今後継続する予定がある活動についても全て受け付け、過去の実績もふまえて審査を行った。その結果、例年並みの登録件数が維持された。

#### ■掘り起こし、告知先地域の拡大や推薦による新規登録の増加

- 他事業のリソース(調査研究事業の実態調査回答企業、広報事業のクリッピング記事掲載企業など)を活用した活動の掘り起こしと、早い段階での積極的な働きかけを行い、全国の芸術文化団体をはじめ県庁、経済同友会、商工会議所などに対しても、地域におけるTIM認知度向上に努めた。
- 認定活動のうち7割以上の120件が継続応募となる(前年度:126件)一方、新規登録の企業・団体は28社・団体(前年度:21社・団体)で、内訳は会員9社・団体、非会員19社・団体となり、非会員が会員の2倍強となった。
- リーフレット送付先(2,498件)全てに、自社・団体以外のメセナ実施企業・団体の推薦状を同封した結果、4件の紹介があり、うち2件が新規登録につながった。さらに、その中の企業1社(チャームケア・コーポレーション)からは会員になる旨の申し出を受け、新規加入に繋がった。

#### ■リーフレットやプレスリリースなど広報発信を工夫、認定書発行など認定メリット強化

- リーフレットでは活動事例を紹介することにより、メセナ活動の多彩さや広がりアピールするとともに、担当者の声を掲載し、TIMの認定によるメリットやメセナマークの活用方法を分かりやすく伝えた。
- 昨年と同様、認定活動の発表では、PR TIMESのほか地方紙向けにプレスリリースを21種作成・個別にFAX配信を行った(164社)。その結果、46件の記事が掲載され、うち新聞は20紙(沖縄タイムス、福島民友、岐阜新聞、東農新報ほか業界紙)に取り上げられた。(前年度:12件)
- 認定活動に付与しているメセナマークが活動のウェブサイト・ポスターなどに掲載されるほか、協議会サイト「アート&カルチャー」での利用など、広報発信に積極的に活用する企業・団体も増えている。さらに1社から依頼を受けて認定書を発行した。「来年は別の活動も新規登録したい」という声も聞かれ、TIM制度の趣旨や認定メリットが少しずつ理解されている。

#### This is MECENAT 認定書



## 「メセナアワード」

### ■「メセナアワード 2021」を選考、コロナ禍での芸術家支援や現場情報の発信など迅速に対応した活動などが受賞

- 「メセナアワード 2021」は、「This is MECENAT 2020」で認定された活動 164 件を対象としており、5 月末の締切りまでに 33 件の応募があった。また、認定・顕彰部会での 2 度にわたる検討会により推薦された活動を含め、最終的に全 53 件を審査員に提案した。
- 対象案件については、9 月中に選考会を 2 回実施(第 1 回はオンライン開催)。メセナ大賞 1 件、優秀賞 6 件を選出し、優秀賞の賞名はコロナ禍ならではの取り組みなどを反映させるように審査委員が創案した。特別賞の文化庁長官賞は、本年は文化庁から「該当なし」との回答であった。
- コロナ禍における芸術家支援や現場情報の発信など迅速に対応した活動、独自の支援策でクラシック音楽の維持と継続に努める活動、おうち時間に楽しい生活の場を提供する活動、アートを通して障がい者の社会参画を促す活動、他企業や団体と連携して新たな価値観を提案する取り組み、才能ある若手音楽家の継続支援、グラフィック専門館だけでなくワークショップを開催するなど地域文化の振興に貢献している活動が評価された。

### ■プレスリリース、リーフレット制作、オンラインによる受賞活動の広報発信

- 10 月 28 日、11 月 11 日にプレスリリースを配信(10 月 28 日は文化庁同時配信)し、主要メディアをはじめ業界紙、専門誌など 10 社の記者取材、また 3 社のオンライン取材があった。受賞活動発表から贈呈式まで含めメセナアワード関連記事数は 131 件となり、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞をはじめ、大賞を受賞したトヨタ自動車を中心に自動車業界や地方企業の受賞コメントを交えた記事などが掲載された。
- 贈呈式開催にあわせてリーフレットを制作し、受賞活動の紹介、大賞受賞のトップインタビュー、来年度アワード選考の対象となる「This is MECENAT 2021」活動一覧などを掲載した。出席者への配布のほか、協議会関係者約 1700 社・団体へ郵送した。協議会 WEB サイトでは、式典での受賞各社の代表スピーチや選考評などをレポートで報告するとともに、贈呈式のアーカイブ動画も掲載した。

### ■贈呈式開催、YouTube でライブ配信、若手新人作家によるトロフィー創作

- 贈呈式を 11 月 25 日に東京ミッドタウン・ホール B にて開催。昨年と同様、コロナの影響により規模を縮小し、贈呈式と記者発表会の同時開催とした。当日は受賞企業・団体、審査委員、協議会役員などの関係者とプレスが参加した(参加者 54 名、プレス 10 名)。
- 大賞のトヨタ自動車からは、「ほかの誰かのためにという” YOU の視点”を持ち、これからもできるだけ多くの方に元気や勇気を届けられるような活動に知恵を絞っていききたい」と喜びのスピーチをいただいた。また、受賞活動紹介では、昨年的好评を受けて、今年も企業担当者によるプレゼンテーションを実施した。また、ホワイエでは活動ポスターなどの展示スペースを設置した。
- トロフィー制作は、アワード当初より若手芸術家の育成のためスパイラル／ワコールアートセンターの協力のもと、3 年ごとに新人作家に委託している。本年度は新たに後藤宙(ごとうかなた)氏にオリジナルのトロフィー制作を依頼し、当日も作品を紹介いただいた。
- 贈呈式の様子は YouTube・Vimeo でライブ配信し、首都圏はじめ地方企業や文化関係者にまで幅広く贈呈式を知ってもらえる機会となった。視聴した方々からは、「企業の担当者がプレゼンテーションすることで、活動をより深く理解することができた」「同じ担当者として、自ら説明しトップの方に認め

てもらえることで、自信や活動へのモチベーションにつながる」などの声が聞かれた。コロナ前の会場参加者数は例年約 200 名であるが、当日の YouTube 視聴者数では、最大時同時接続者数は 74 名、視聴回数は 392 回、平均視聴時間は 25 分だった。(2020 年:63 名/251 回/14 分)



「メセナアワード 2021」贈呈式



担当者によるプレゼンテーションの様子

【「メセナアワード 2021」受賞活動および受賞企業・団体】

	メセナ大賞 パンデミックでも幸せつくるで賞	トヨタ自動車株式会社 「パンデミックの中でのプチ幸せの量産」
優 秀 賞	「禍」の今こそ音楽で賞	公益財団法人ソニー音楽財団 コロナ禍における、音楽を通じた教育活動に取り組んでいる 団体、および若手演奏家への支援
	おうちごはんアートで賞	久原本家グループ くばらだんだんアート
	でも笑顔を届けるで賞	株式会社資生堂 LAVENDER RING MAKEUP & PHOTOS WITH SMILES
	ロビーで育て！音楽家で賞	株式会社ホテルオークラ東京 生まれ変わったホテルでも続く、音楽を通じた社会貢献
	ステイホームでもおえかき賞	公益財団法人ベネッセこども基金 親子でチャレンジ国際理解！ちびっこおえかきコンテスト
	いつも福島にグラフィックで賞	大日本印刷株式会社／公益財団法人 DNP 文化振興財団 CCGA 現代グラフィックアートセンター

【This is MECENAT 2021／メセナアワード 2021 審査委員】

- 萩原なつ子 (立教大学・教授／(認特)日本 NPO センター代表理事 ※審査委員長)
- 新井鷗子 (横浜みなとみらいホール館長／東京藝術大学特任教授)
- 佐倉 統 (東京大学大学院情報学環・教授／理化学研究所革新知能統合研究センター・チ  
ームリーダー)
- 中島信也 (東北新社代表取締役社長／CM 演出家)
- 仲町啓子 (実践女子大学教授／秋田県立近代美術館特任館長)
- 山口 周 (独立研究者、著作家、パブリックスピーカー)
- 尾崎元規 (企業メセナ協議会理事長)
- \* 以上五十音順、敬称略



## 1-4. 情報発信・提供

### ■ 広報活動

#### (1) プレスリリース

各事業の年間計画に基づき、協議会として効果的な配信に努めた。昨年に引き続き PR TIMES などの配信サービスの積極的な利用と各事業との連携に重点を置き、ターゲットの絞り込みをさらに充実させながら丁寧な配信に注力した。

#### 【プレスリリースによる情報発信:6件】

No.	配信日	リリースタイトル
1	3/4	「This is MECENAT 2020」 3/16 より募集スタート
2	3/25	2020 年度メセナ活動実態調査 結果
3	5/12	「SDGs とメセナ」vol.6「2020 年度メセナ活動実態調査」報告会を開催 ～今こそメセナ!! コロナ禍での対応と今後の展望～
4	7/7	メセナ活動認定制度《This is MECENAT 2021》 コロナ禍でもメセナの灯は消えず～企業による芸術文化支援活動 166 件を認定
5	10/28	「メセナアワード 2021」受賞 7 活動決定 メセナ大賞はトヨタ自動車(株)の「パンデミックの中でのプチ幸せの量産」
6	11/11	「メセナアワード 2021」贈呈式を開催 コロナ禍への迅速な対応を含む受賞 7 社・団体を表彰

#### 【事業関連記事のメディア掲出数】

年	協議会全体	メセナアワード	TIM	調査研究	助成	国際	その他
2019	4	126	47	5	1	0	23
2020	30	100	74	61	70	0	7
2021	2	132	68	58	0	0	6

(紙面、ウェブ掲載含む)

※2020 年「協議会全体」30 件のうち 28 件が「ネット TAM 芸術文化応援プロジェクト」

※2020 年「助成」は GBFund でコロナを災害認定、助成の実施によりプレスリリース配信したため

#### 【主な掲出記事】

掲載日	媒体	内容	関連事業
4/5	日経産業新聞	眼光紙背/コロナで考えたいメセナの原点	調査研究
5/6	週刊ビューロー	メセナ活動実態調査二〇二〇 成果は「地域」に加えて 「社員」にも	調査研究
7/8	沖縄タイムス	「沖展」6年連続 メセナ活動認定 メセナ協、166 件発表	TIM



掲載日	媒体	内容	関連事業
7/20	福島民友	大日本印刷の2施設 芸術支援活動で認定	TIM
8/9	岐阜新聞	とうしん美術館 芸術振興と認定 企業メセナ協議会	TIM
11/26	朝日新聞	メセナ大賞にトヨタ自動車	TIM
11/26	福島民友	DNP 文化振興財団 大日本印刷が優秀賞 メセナアワード	アワード
11/27	産経新聞	メセナアワード トヨタに大賞 コロナ禍の楽団支援活動など評価	アワード
12/2	日本経済新聞	障害者アート 包装で身近に 調味料の久原本家など採用 報酬払い社会参加後押し	アワード
12/6	毎日新聞	メセナアワード贈呈式を開催	アワード

## (2)ウェブサイト運営

### ホームページのリニューアルサイト公開

2020年に行ったホームページのリニューアル後、修正を重ね、リニューアルをすべて完了し、本サイトは7月1日より、ウェブライブラリーおよびアート&カルチャーは7月9日より新サイトへ完全移行された。アート&カルチャー(会員のメセナ活動)の掲載にあたり、掲載依頼のウェブフォームを立ち上げ、テストページで掲載前の確認をできるようにするなど、いつでも掲載したい情報や画像をアップする環境を整えることで利便性を高めた。会員企業に新たな掲載依頼方法を周知徹底し、掲載件数増加に注力し、125件・26社の活動を掲載した。年間ページビュー数は19,432。引き続きウェブサイトを中心とした情報発信とSNSとの連動を強化した。

### 【企業メセナ協議会ウェブサイトへの年間アクセス数】

セッション数 (訪問回数)	ユーザー数 (訪問者数)	ページビュー (閲覧数)
41,667	31,874	105,220

※外部サイトの「TIM」と「かるふあん」を除く

※SNS フォロワー数: Facebook 2,206、Twitter 1,814、Instagram 213

## (3)メールマガジン

ウェブサイト「アート&カルチャー」掲載の会員活動や協議会のイベントニュースの紹介を中心に、月1回(月初)に定期配信を行った。そのほか定期会員からの掲載依頼の対応、事業と連携した主催イベントや募集の周知、会員向けの優先情報配信として「会員限定メルマガ」など、適宜不定期配信も行った。メルマガ配信数は会員、一般(協議会関係者・利用者)合わせて約3,000件。メセナ担当者や幅広い文化関係機関への情報発信ツールとなっている。

## (4)メセナライター制度

5月に募集を行い、新たに4名のメセナライターを委嘱した。昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症により取材の実施が難しい状況のため、協議会の主催セミナーのレポート執筆を依頼し掲載した。

第6期(2020年4月～2021年3月) 委嘱1名(継続)

第7期(2021年4月～2022年3月)委嘱5名(継続1名、新規4名)

【メセナライターレポート掲出数:2件】

公開	タイトル	ライター
7月	調査報告会レポート2020「SDGsとメセナ」vol.6 「2020年度メセナ活動実態調査」報告会 ～今こそメセナ！コロナ禍での対応と今後の展望～	和田大資

## ■出版、ライブラリー

メセナ情報の提供とライブラリー運営、協議会出版物の電子データ化

- 30周年記念事業の一環として、また、12月25日には「メセナを知る本」のリニューアル版「サステナブル経営と企業メセナの役割」を発行した。
- 既刊発行物の販売を実施
  - ・『メセナセミナーシリーズNo.10 企業へのアプローチガイド』(2007年3月発行): 4冊
  - ・『メセナを知る本』(2010年12月発行): 4冊
  - ・『企業メセナへのアプローチガイド』(2020年4月発行): 21冊
- 協議会事務所内のライブラリーでは、企業メセナ、社会貢献、CSR活動および文化政策、アートマネジメント等に関する情報収集活動を行い、レファレンス対応も積極的に行った。コロナ禍もあり、ライブラリーを訪問しての利用者はいなかった。

## 【ライブラリー概要】

公開時間	月曜～金曜日、11:00～17:00(要電話予約)
開架資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 和書・報告書: 1,627冊(企業と文化・社会貢献、文化行政・文化政策、アートマネジメント・文化経済学、公益法人・NPO・文化税制、名簿・年鑑・一覧)</li> <li>• 洋書: 563冊(14カ国の文化政策、アートマネジメント関連)</li> <li>• 企業・企業財団の資料: 約960企業・団体分</li> <li>• 新聞・雑誌掲載記事(1989年12月～2021年12月)</li> <li>• 定期刊行物: 行政、芸術団体、研究機関、NPO、他</li> </ul>
閉架資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 映像・音声資料: 265点(主催セミナー: 1998-2001年)</li> <li>• メセナアワード贈呈式: 1991年～2011年</li> </ul>
年間利用者数	0名(一般: 0名)

## 1-5. 普及促進

セミナー・フィールド視察

- フィールド視察については、コロナ感染拡大を考慮し、今年度は実施を見送った。

## 会員ネットワーキング

■コロナ禍におけるメセナ活動の影響・現在の課題や新たな展開などについて話し合う、会員交流の場を設けた。

### 【オンライン情報交換会】

- 調査研究事業の『2020年度メセナ活動実態調査報告書 Mecenat Report 2020』発行後の読者アンケートで、各社のコロナ禍の活動状況や対策についての情報交換を希望する声があり、オンライン情報交換会を開催した。音楽・美術・その他と各分野1回ずつ、計3回実施し、11社・2団体が参加した。参加者からは、緊急事態宣言とまん延防止等重点措置適用に準ずる施設やイベント運営の変更対応と方針の策定方法、オンラインの活用度合いなど、悩みや迷いの共有だけでなく、手探りで試行錯誤しながら活動を進めている状況の共有が活発に行われた。メセナ活動の社内外理解や活動評価などコロナ禍以外の課題についても言及され、今後は要望にもとづいて他の課題についても適宜、情報交換の機会の提供に努めていく。

### オンライン情報交換会(その他分野)

- 日時：2021年5月13日(木)16:00~17:00
- 会場：オンライン開催
- 参加会員：7名(4社)  
岡元 昇、保坂和拓(朝日放送グループホールディングス)  
角田尚美(JTB)  
森口智之、高久ルビ希歩、石山弘美(清水建設)  
松原千春(竹中工務店)



### オンライン情報交換会(美術・音楽分野)

- 日 時 : 2021年5月17日(月)11:00~12:00
- 会 場 : オンライン開催
- 参加会員: 7名(5社・団体)  
岡元 昇、保坂和拓(朝日放送グループホールディングス)  
竹内智美(アンデルセン・パン生活文化研究所)  
堀内あかり(TOA)  
山田真也(原田)  
水野谷修一、牛来汐里(三井住友海上文化財団)



### オンライン情報交換会(美術分野)

- 日 時 : 2021年5月18日(火)11:00~12:00
- 会 場 : オンライン開催
- 参加会員: 6名(5社・団体)  
大西隆宏、郷野丈洋(アサヒグループホールディングス)  
石橋響子(大日本印刷)  
井上ルミ子(東京ミッドタウンマネジメント)  
薩川浩章(ベネッセホールディングス)  
三浦善太郎(吉田秀雄記念事業財団)



## ■ 国際交流

- 協会の英語版ウェブサイト、例年掲載している調査報告書発行のプレスリリースに加えて、日本企業のコロナ禍でのメセナ活動を世界へ周知すべく、2020年および2021年開催の調査報告会の英語版レポートを掲載した。

## ■ 地域メセナ交流・推進

各地域の文化振興に寄与

- 全国メセナネットワーク(会員数:13団体)の幹事として会の活性化を図るために、出張の機会を利用し、周辺の会員メンバーを順次訪問し、各地域の芸術文化活動の状況、それぞれの団体の最新の取組・課題、全国メセナネットワークのあり方や今後について意見交換を行った。一昨年、昨年はコロナ禍のためできなかったが、12月17日にリモートを用いて総会を開催することができた。各地に点在する会員13団体の活動を継続させるための課題や、今後の会のあり方についても活発な議論がなされた。参加者からは他団体の活動などを共有できて、大変勉強になるとの意見が寄せられた。来年度も総会で情報交換を行い、メセナ活動継続や運営形態などを含め議論を継続することとなった。

## 1-6. コーディネート、協力

### ■ 芸術文化振興の専門機関として幅広い相談・協力に対応

- 企業メセナの専門機関として、協会に蓄積された情報や知見を活かし、公益芸術団体など芸術文化振興に関わる幅広い相談に応じる他、具体的なメセナプログラムの開発や協力、コーディネート事業を展開。企業間および企業と他のセクターをつなぐ役割を担った。
- 東京都が2020年に向けて都民のボランティア参加を促すべく、「東京都ボランティア活動推進協議会 気運醸成分科会」を設置。この構成機関として依頼があり、経団連1%クラブや経済同友会、東京商工会議所ほか、教育機関や中間支援組織等とともに参画している。東京都の主催により「共助社会づくりを進めるための社会貢献大賞」が設けられ、企業メセナでボランティア活用に取り組む案件の推薦を依頼され対応した。
- トヨタ自動車と協会が協働して運営するアートマネジメントに関する総合サイト「ネット TAM」については、本年度も継続して事務局を担い、毎月の定例会議を行いながら内容の充実を実現している。本年は2009年以来12年振りにリアルイベント「TAM スクール」を開催した。ネット TAM はサイト運営の中長期における今後の方針を定めるため、サイトの見直しと検討を2019年より開始。2019年は読者アンケートを実施し、2020年に振り返りによりサイトの現状を再認識し、事業方針を定めた。その中で見いだされたネット TAM の取り組むべきことの一つに「学び」があり、当年度にて学びの場を創出すべくスクールの開催に至った。サイトには新コンテンツ「TAM スクール」を立ち上げ、講義レポート・動画・参加者レポートなどすべての記録をサイト展開し、より充実したアーカイブとなった。

トヨタ自動車	アートマネジメント総合情報サイト「ネット TAM」の運営
<p>主な業務内容:アートマネジメント総合情報サイト「ネット TAM」(<a href="http://www.nettam.jp">www.nettam.jp</a>)事務局としてサイトの管理・運営、コンテンツの企画・制作、運営事務局の定例会開催、メルマガ配信(定期配信月 1 回ほか適宜)、SNS 管理・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ネット TAM スクール <ul style="list-style-type: none"> <li>日時:1 日目:2021 年 6 月 19 日(土)10:30 - 17:00、2 日目:2021 年 6 月 20 日(日)10:30 - 16:00</li> <li>場所:トヨタ自動車株式会社 東京本社</li> <li>当日ライブ配信(視聴無料)</li> </ul> </li> <li>会場参加 <ul style="list-style-type: none"> <li>参加費:3,000 円</li> <li>対象:アートマネジメントの現場に携わっている方、かかわったことがある方で、興味関心をお持ちの方。アートプロジェクトの企画制作の経験がある方</li> <li>当日参加者数:29 名、当日視聴数:317</li> <li>アーカイブ(TAM スクールコンテンツ全体)ページビュー数:2 万</li> </ul> </li> <li>アクセス数(年間) <ul style="list-style-type: none"> <li>訪問数:約 112 万、ユーザー数:約 48 万、ページビュー:約 360 万</li> </ul> </li> <li>主な更新内容: コンテンツ連載(月 1~3 件更新) <ul style="list-style-type: none"> <li>【Voices~みんなの声座】...さまざまな分野や立場で芸術と向き合う人の声を集める投稿形式のミニコラム</li> <li>【リレーコラム】...アートマネジメントの現場で活躍中の方々が 1 つのテーマに沿ってリレー形式でつなぐエッセイ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「新型コロナウイルスに立ち向かうアート現場レポート」(~2021 年 4 月)</li> <li>・「ウィズコロナでの挑戦」(2021 年 5 月~)</li> </ul> </li> <li>【社会におけるアートの可能性】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・象の鼻テラス(横浜市)</li> </ul> </li> <li>【オリンピアド文化通信】...オリンピック文化プログラムに関する情報発信レポート。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめ:第 14 回「新型コロナが問い直した文化プログラムの意味」/吉本光宏氏</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	



## 【その他協力依頼対応】

### ■委員・役員

依頼元	内容(期間・開催日)
文化庁	国民文化祭実行委員会委員 (2020 年 4 月 1 日~2021 年 3 月 31 日)
東京都	東京都ボランティア活動推進協議会構成団体 (2015 年 9 月 3 日~)
静岡県	「静岡県文化政策審議会」委員 (2021 年 8 月 16 日~2023 年 8 月 15 日) 「静岡県文化政策審議会」委員 (2019 年 7 月 26 日~2021 年 7 月 25 日)

依 頼 元	内 容(期間・開催日)
横浜市	令和3年度「横浜市広報企画審議会」委員 (2021年7月1日～2022年6月30日) 令和2年度「横浜市広報企画審議会」委員 (2020年7月1日～2021年6月30日)
船橋市	「船橋市文化振興推進協議会」委員 (2021年4月1日～2023年3月31日) 「船橋市文化振興推進協議会」委員 (2019年4月1日～2021年3月31日)
特定非営利活動法人 日本NPOセンター	評議員(2021年7月1日～2023年6月30日) 評議員(2019年7月1日～2021年6月30日)
認定NPO法人 トリトン・アーツ・ネットワーク	第7期評価委員会委員(2020年～2022年)
東京芸術祭実行委員会	東京芸術祭実行委員(2021年7月1日～2023年3月31日)

#### ■後援 ラベル提供

依 頼 元	内 容(期間・開催日)
特定非営利法人 世界劇場会議名古屋	世界劇場会議名古屋 フォーラム 2021 (2021年12月10日)
株式会社アーバネットコー ポレーション	AAC2021 募集要項リーフレット(2021年5月24日) AAC2021 最終審査リリース・アーティスト年鑑(2021年11月1日)

#### ■その他

内 容	依 頼 元
相談対応	エイベックス株式会社、文化庁、茨城県、京都市など

#### ■大学生の実習・インターンシップ受入れ

- 昭和音楽大学ではアートマネジメントの授業の一環として実習・インターンシップ制度を取り入れており、同大学からの依頼によりアートマネジメントコースの学生1名を受入れ、協議会の活動や企業メセナについての理解を深めていただく機会を提供した。

## 公 2: 芸術・文化活動等への寄付を促す助成に関する事業

### 2-1. 2021 年重点活動

#### ■新型コロナウイルス感染症拡大による影響と対応

昨年にひきつづき、2021 年も新型コロナウイルスの感染状況に影響を受けた 1 年であった。助成制度利用者の活動に影響が及んだものの、予定段階で様々なリスクヘッジを考慮し、状況によりオンラインなどを取り入れるなどした活動も多く、認定活動のうち中止は 1 件、活動内容の変更および延期は 23 件となり 2020 年と比べると延期や中止は減少した。2021 年も新型コロナウイルスによる活動内容変更および延期については芸術文化活動の支援の観点から、特別措置として活動の「認定」を維持することができるようにし、各活動の事情を考慮して個別に柔軟な対応をした。

#### ■助成事業の体系化 新たな運用を開始

2021ArtsFund においては寄付が 1 件も通らなかった採択活動に対しては制度利用手数料を追加するなどの新たな運用を 2021 年 1 月より開始し、活動者への周知を行った。

#### ■助成事業 Web システム「かるふあん！」のシステム改良

活動申請書フォームの改良、寄付者／活動者へのシステム自動メールの全面見直しなど、より利便性を向上させるための改良を実施した。

#### ■2021ArtsFund における「SOMPO アート・ファンド」の検証

2021 年 3 月に終了を迎えた「SOMPOアート・ファンド」の 5 年間の活動をまとめた報告書を作成した。SOMPOアート・ファンドを事例として、寄付者が設立するファンドの提案活動を実施するなど、今後の運営の基盤とすることができた。

### 2-2. 2021 年 助成事業の活動状況

#### 2-2-1. 2021 芸術・文化による社会創造ファンド[2021ArtsFund]

#### ■全体の利用実績

##### 1. 【申請・採択状況】

##### (1) 芸術・文化団体による活動の利用状況

##### ・2021 年度各回利用実績

実施回	選考日	申請数	採択数
第 1 回	2021 年 3 月 17 日	4 件	2 件
第 2 回	2021 年 6 月 22 日	13 件	12 件
第 3 回	2021 年 9 月 15 日	7 件	5 件
第 4 回	2021 年 12 月 13 日	5 件	3 件
合計		29 件	22 件



・年度別利用状況の推移

実施年度	申請数	採択数
2016年度	20件	16件
2017年度	27件	22件
2018年度	23件	19件
2019年度	23件	20件
2020年度	18件	16件
2021年度	29件	22件

(2)目的別ファンドの継続運用と寄付者の要望に沿った寄付コーディネートを実施。

●SOMPO アート・ファンド（2016年6月設立）

オリンピック・パラリンピックに向けて設立された当ファンドは、2020年2月に実施された第5回選考の活動が完了し、5年間の運営を終了した。

実施回	選考日	申請数	採択数
第1回	2016年7月22日	公募実施せず	18件
第2回	2017年5月15日	98件	20件
第3回	2018年1月26日	137件	16件
第4回	2019年2月1日	152件	16件
第5回	2020年2月3日	114件	3件

●The Okura Tokyo Cultural Fund（2017年3月設立・2019年10月名称変更）

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を鑑み、第5回は選考を実施しなかった。

実施回	選考日	助成総額	採択数
第1回	2017年3月16日	2,774,000円	3件
第2回	2018年3月6日	1,000,000円	2件
第3回	2018年12月17日	900,000円	2件
第4回	2020年3月19日	1,000,000円	2件

2.【寄付・助成状況】 SOMPO アート・ファンド、Hotel Okura Tokyo Cultural Fundを含む

年度	寄付総額	助成総額
2016年度	377,876,359円	312,131,769円
2017年度	256,823,600円	191,149,911円
2018年度	332,193,261円	300,837,133円

年 度	寄付総額	助成総額
2019 年度	326,212,289 円	324,521,423 円
2020 年度	174,023,742 円	168,341,792 円
2021 年度	206,420,000 円	195,271,600 円

## 2-2-2. 「芸術文化による災害復興支援ファンド」(GBFund)

### ■全体の利用実績

#### 1. 【申請・採択状況】2017 年 1 月名称変更より

2021 年は、寄付金減少などにより、採択未実施。

実施回	選考日	申請数	採択数
第 1 回	2017 年 7 月 14 日	54 件	11 件
第 2 回	2018 年 7 月 13 日	46 件	13 件
2019 年	2019 年 2 月 27 日	10 件	10 件
2020 年	2020 年 10 月 8 日	74 件	16 件

※申請数、採択数には、追加支援を含む。

#### 2. 【寄付・助成状況】※2011 年 3 月設立「東日本大震災による復興支援ファンド」を含む

年 度	寄付金総額	寄付金累計額	助成金総額	助成金累計額
2017 年度	4,367,060 円	159,085,370 円	4,897,390 円	145,430,577 円
2018 年度	1,445,824 円	160,531,194 円	3,080,000 円	148,510,577 円
2019 年度	1,532,627 円	162,063,821 円	1,303,127 円	149,813,704 円
2020 年度	3,587,455 円	165,651,276 円	3,444,376 円	153,258,080 円
2021 年度	302, 345 円	165,953,621 円	0 円	153,258,080 円

## 2-2-3. 助成認定制度

### ■小さな活動を支援する、寄付集めの入り口として定着

2021 Arts Fund 運用開始後、中・小規模の活動にご利用いただき、任意団体や比較的身近な芸術文化活動を実施されている方々を支援する制度として定着している。継続して利用している団体も多いが、新たに寄付集めに挑戦しようとする団体もある。月1回実施している助成相談日については、2021 年度相談件数 31 件に対応し、制度利用の促進に努めている。2020 年は新型コロナウイルスによる影響により大きく減少した相談日利用が、2021 年度はオンライン相談の普及などにより、一昨年並みに戻りつつある。

## ■全体の利用実績

### 1. 【申請・認定状況】

実施回	審査日	申請件数	認定件数
第1回	2021年3月17日	5件	4件
第2回	2021年6月22日	19件	16件
第3回	2021年9月15日	16件	14件
第4回	2021年12月13日	9件	9件
合計		49件	43件

### 2. 【年度別利用状況の推移】

実施年度	申請数	認定数
2016年度	102件	81件
2017年度	72件	65件
2018年度	88件	72件
2019年度	86件	70件
2020年度	66件	52件
2021年度	49件	43件

### 3. 【助成認定制度を通じた寄付件数と寄付金額】

年度	寄付件数	寄付総額	助成総額
2016年度	337件	62,765,639円	67,485,639円
2017年度	412件	76,613,798円	77,024,613円
2018年度	471件	74,981,467円	75,820,652円
2019年度	499件	75,797,558円	73,572,558円
2020年度	289件	65,311,020円	60,146,020円
2021年度	277件	53,942,000円	57,577,000円

2021年度の支払助成金は58,577,000円であるが、1,000,000円の返金があり、助成総額は57,577,000円となった。

以上